



▲川越信男議長（写真左）より「市庁舎の耐震補強工法における要望書」を受け取る尾脇雅弥市長

令和4年6月 8日

「垂水市庁舎等のあり方検討委員会」※1

事務局より耐震補強案が示される

※1 庁舎等の今後のあり方、基本的方針を協議する外部検討委員会
（学識経験者：5名、市内公共団体代表者：10名、公募委員：5名）

令和4年6月 10日

「庁舎整備検討特別委員会」※2

事務局より垂水市庁舎等のあり方検討委員会と同様の耐震補強案が示される

※2 庁舎および消防庁舎の課題、その他を含め、合わせて新庁舎の課題を検討する、垂水市議会の特別委員会（議員13名で構成、議長はオブザーバーとして参加）

令和4年6月 28日

「垂水市庁舎等のあり方検討委員会」

委員会が現庁舎の耐震補強工法の方向性について結論を出し、翌6月29日に意見書が提出される

令和4年7月 1日

「庁舎整備検討特別委員会」

委員会として耐震補強工法の方向性を採決

令和4年7月 11日

「令和4年第1回垂水市議会臨時会」

議会として耐震補強工法の方向性についての決議を可決し、要望書が提出され、市長が「RC壁による開口閉塞と鉄骨ブレースを挿入する内付主体の工法」を基本として進めることを表明

現庁舎

耐震補強の方向性が決定

現庁舎の耐震補強について、外部検討委員会から意見書、垂水市議会から要望書が提出され、その方向性を尾脇雅弥市長が表明されました。ここでは、主な工法、令和4年度のこれまでの経過、市長メッセージ等を通じて、耐震補強の方向性についてお知らせいたします。



▲RC壁による開口閉塞と鉄骨ブレースを挿入する内付主体の工法を用いたイメージ図。
（イメージ図は現時点のものであり、今後の実施設計等により、一部変更となる場合もあります。）

●RC壁による開口閉塞と鉄骨ブレースを挿入する内付主体の工法とは

柱・梁で囲まれる部分に鉄筋コンクリートの壁を設置し窓などの開口部を鉄筋コンクリートでふさぐ工法と柱・梁で囲まれる部分に鉄骨ブレースを挿入して補強する工法

◎耐震工法のおおまかな工事費

3億8,000万円～5億5,000万円

※ おおまかな工事費算出については、過去の実績をもとに推計したもので、社会情勢の変化により、変わる場合があります。

◎メリット

耐震壁や開口閉塞は施工が容易である
外観、南側駐車スペースには大きな影響を与えない

◎デメリット

室内作業を行うスペースが必要
（執務室の移動が発生する）
採光・執務スペースの減少がある